

えげおさんさん

笑顔燦燦



家に三声あり 学校に三声あり

～ 自ら課題に向かい、仲間と共に解決する子供の育成を目指して ～

本格的な学校再開から一月。子供たちもようやくリズムを取り戻してきたようです。学校に響く子供たちの元気な声は、なんとも心地よいものです。

さて、中国の思想家孟子の言葉に「家に三声あれば安泰なり」という言葉があります。三声とは、一 家族が働いている声や物音 二 赤ん坊の泣き声 三 読書の声のことだそうです。「労働」「子育て」「学び」と言ったところでしょうか？

では、学校での三声は何でしょうか？ 私は、「地域の方々の声」「職員室での先生方の声」「教室での子供の声」ではないかと考えています。地域から孤立して独善的になる学校には「地域の方々の声」は聞こえません。校長の声だけが響く職員室には、チームとしての職員集団は育ちません。教室に先生の説明する声だけが聞こえる授業では、子供の主体性や協働性は育ちません。学校に地域の方々の声が響き、職員室に先生方の積極的な声が満ち、教室に子供たちの「なぜだろう」「こうしたらどうかな」「あ、わかった！」「できた！」という声がこだまする、そんな学校でありたいと思っています。

ところが、現在、新型コロナ感染拡大防止のため、地域の方との交流は途絶え、授業でも子供同士の話し合いや学び合いの場面が制約されています。そんな中ですが、職員一同創意工夫を重ね、知恵を出し合いながら、三声が響く学校づくりを進め、子供たちに今年度の学校目標である「自ら課題に向かい、仲間と共に解決する力」を育てていきたいと思っています。

地域と共にある学校を目指して

～ 熊本版コミュニティ・スクール ・ 地域学校協働活動指定

明治初頭の学制発布に伴い、政府の力ではなく、その地域の人々の手によって、日本各地に次々と小学校が建設されました。明治政府の財政基盤が脆弱だったという側面もあるかもしれませんが、いかに学校が日本の地域に根ざしたものをうかがい知ることができます。現在、公教育という形に変わったとは言え、「学校が地域と共にある」と

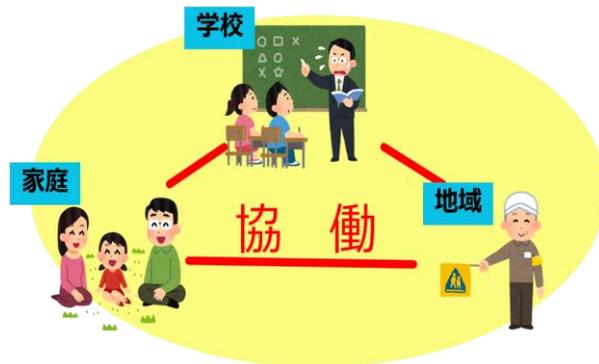
いう精神は、私たち日本人の感覚の中に息づいているように思います。一方で、子供たちを取り巻く課題は、複雑・多様化しており、公教育としての学校だけでは解決できないものが増えている状況があります。

そこで、子供たちを取り巻く様々な教育課題に対応するため、今一度、日本の学校設立の当初の精神に立ち返り、公教育である学校、家庭教育を担う家庭、地域での学びを支える地域社会が、共に手を携え、地域全体で子供達の育ちを支えていく仕組みとして、「熊本版コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」が始まりました。

「開校魂」という言葉が息づく八代小学校区では、以前より住民自治会を中心に、地域と学校に太い絆がありましたが、今年度、正式に「熊本版コミュニティ・スクール」の組織を整えました。6月9日に、住民自治会やPTAの協力のもと、熊本版コミュニティ・スクールに係る「第1回運営協議会」を行いました。会議では、八代小学校在籍の子供たちの育ちにかかわる現状や課題を共有すると共に、八代小学校の今年度の学校運営方針等を承認していただきました。

また、「地域学校協働活動」においても、地域と学校をつなぐ役割の「地域コーディネーター」として、緒方七緒子さんを指名いたしました。

これからは、子供達を中心に据え、「地域」「家庭」「学校」の三者が、子供を取り巻く課題を共有し、それぞれの持ち味を生かし、それぞれの力を発揮できたらと思います。『子供の笑顔のために』共に手を携えて！



今後の見通し

- ・クラブ活動 …… 2学期より3回程度実施予定
- ・修学旅行（6年） …… 感染拡大防止対策を行った上で実施予定（9/27.28）
- ・集団宿泊教室（5年） …… 感染拡大防止対策を行った上で実施予定（10/28.29）
- ・運動会 …… 規模を縮小して実施予定（10/11）
- ・わくわく集会 …… 規模を縮小して実施予定（11/8）